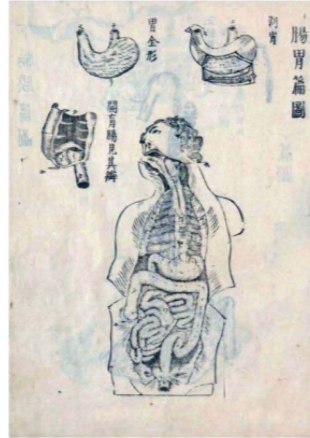


「解体新書」について学んだことを覚えていますか？

「腸胃篇図」
(内藤記念くすり博物館より提供)



「想像図」
(教育出版 小学社会6上
早川和子さん提供)

江戸で医者をしていた杉田玄白は、中国の医学書とオランダ語で書かれた医学書の人体の図があまりに違うことから、本当は、どうなのか確かめたいと考えていました。しばらくして、人体の解剖があることの知らせを受け、見学します。そして、オランダ語の医学書が正確なのに驚き、これを世に知らせることが医学の進歩になると決意します。そして、辞書もない中、苦労しながら、前野良沢ら仲間と3年余りを費やして翻訳し、「解体新書」として1774(安政3)年出版します。

小学校6年生社会科の挿し絵には、労働から生まれたすぐれた技術や知識を活かして人体の解剖をし、説明をしたのは、当時厳しい差別を受けていた身分の人でしたと書かれています。この技術や知識と玄白たちの真理を追究する姿が、その後の医学や洋学の発展につながりました。

※1996年の教科書から記載されました。



学習を進めている先生たちは…

この学習で、私たちが大切にしていることは、

- ①「『差別を受けていた人々』の中には、すぐれた技術を持ち、医学の発展に貢献したこと」、
- ②「差別を受けていた人々に教えを求め、「解体新書」の翻訳・出版をした杉田玄白たちの差別を乗り越えようとした生き方」です。差別をなくすことは、豊かな社会をつくることにつながると子どもたちとともに考えています。



杉田玄白が晩年残した本「蘭学事始」には、被差別身分の老人を「健やかな老人」と表す温かい眼差しが感じられます。また、老人も杉田玄白たちを次のように見ていました。ここにも、玄白たちの思いが表れています。



杉田玄白像▲

「蘭学事始」
文化二年(一八一五)

今まで、いろいろな医者が腑分けを見に来ましたが、みんな遠くから見ただけで、そばに寄ってきただけで、あなたの方だけです。

また、玄白はこんな文章も残しています。



「形影夜話」
享和二年(一八〇五)

武士や百姓、町人など身分をつくり区別しても、人間であることは皆同じである。しかも、尊いとか卑しいとかを分けることまでしている。医療に携わるものは、貴賤貧富の隔てなく平等に仁術を尽くすことだけを望むべきである。



蘭学を生んだ解体の記念に 東京都 回向院のレリーフ



左記のレリーフの他、東京都聖路加国際病院の近くには「蘭学の泉はここに」の言葉と解体新書を表した碑があります。その他、大分県中津駅前「蘭学の泉 ここに湧く」の碑、秋田県角館 解体新書の絵図を描いた小田野尚武の碑など各地に業績を称えた記念碑があります。